

語義の継承、または記述の独り歩き

—— 狩猟用語としての >trommeln< をめぐって ——

小 澤 昭 夫

1

trommeln (かつては trummeln) という動詞がある。これは名詞 Trommel (Trummel) から派生したもので、1499年の文書に初めて見出され、16世紀には使用例が無く、その後再び使用されるのは17世紀からとのことである¹⁾。

手許にあるドイツ語辞典で、この trommeln を引いてみると、狩猟用語としての語義が次のように記されている。

Wahrig: Deutsches Wörterbuch. 1972: <Jägerspr.> *schnell mit den Vorderläufen auf den Boden schlagen* (vom Hasen u. Kaninchen bei Gefahr)

Duden. Das große Wörterbuch der deutschen Sprache. Bd. 6. Sp-Z. 1981: 3. (Jägerspr.) *bei Gefahr mit den Vorderläufen auf den Boden schlagen*: der Hase trommelt.

Der Sprach-Brockhaus. Deutsches Bildwörterbuch. ⁸ 1972:

der Hase trommelt; schlägt rasch mit den Vorderläufen

Mackensen: Deutsches Wörterbuch. 5., verbesserte und verweitere Auflage 1967: mit den Vorderläufen schlagen (Hase) (1962年の第4版も同じ)

Der Sprach-Brockhaus と Mackensen によれば、trommeln の意味は「ウサギが(素早く)前足で叩く」ことである。一方、Wahrig では「(ノウサギやアナウサギ²⁾が危機に際して)素早く前足で地面を叩く」——Brockhaus-Wahrig, dtv-Wahrig でもほぼ同様³⁾——であり、Duden の辞典では——Stilwörterbuch (第6版1971年) でも Deutsches Universalwörterbuch (1983年) でも⁴⁾——「ウサギが危機に際して前足で地面を叩く」である。

ところが、この Wahrig と Duden に記されているような語義説明「ウサギが危機に際して(素早く)前足で地面を叩く」は、疑わしいと言わざるを得ない。

2

おぼろげな記憶ではある。何時か何かで、ウサギが「前足」ではなく「後足」で地面を叩くところを見たのである。

これが記憶違いでないことは、Klappenbach/Steinitz: Wörterbuch der deutschen Gegenwartssprache (1961-1977, Akademie-Verlag, Berlin) ——以下 K/S と略称——によっ

て確かめられた。第5巻3799頁の *trommeln* には、次のように記されているからである。

trommeln/Vb./

2. Jägerspr./ *von Hasen und Kaninchen* a) *schnell mit den Vorderläufen auf einen Feind und Rivalen schlagen* b) *bei vermuteter Gefahr im Sitzen schnell mit den Hinterläufen auf den Boden schlagen*

「(ノウサギやアナウサギが) a) 素早く前足で、敵にして競争相手を叩く

b) 危険が予想される場合に、坐って⁹⁾素早く後足で地面を叩く」

ここではa)「前足で叩く」場合とb)「後足で叩く」場合とが明確に区別されており、危険を感じて地面を叩くのは「後足で」なのである。a、bのそれぞれに掲げられている用例は次の通りである。

Er [*ein Hase*] kommandierte die Hunde, betrieb sie durch Trommeln mit den Vorderfüßen von ihrem Lager GRZIMEK Wildes Tier 234⁶⁾

「彼(ウサギ)は犬たちに命令し、前足で叩いて彼らを寝床から追い立てた」

Aufgescheuchte Kaninchen trommeln mit den Hinterläufen, und diese im Erdreich hallende Telegraphie wird...als Warnung verstanden R. GERLACH Vierfüßler 137⁷⁾

「怯えたウサギたちは後足で叩く、すると地に反響するこの信号が …警報と理解される」

bの「地叩き」については、河合雅雄の『飼いウサギ』を見ると、更に詳しく書かれている。「これは背をそらして顔をぐっとあげ、後足で素早く地を叩く行動である。足のうらはちぢれ毛が密生していたから、叩くと〈パタン、パタン〉とよくとおる強い音がした。(中略)地叩きのほんとうの意味は警戒の合図である。危険を感じるとウサギはしきりに地叩きをする。鳴き声の少ないウサギに、このようなコミュニケーションの方法が発達していることはおもしろいことである」(224頁)

「地叩き」即ち「後足で地面をたたく」行動については、この外にもさらに二つの資料を示すことが出来る⁸⁾。

こうしてみると、*trommeln* で表されるウサギの行動には2種類あると言えそうである。ひとつは「(素早く)前足で何かを叩く」、もうひとつは「危険を感じ、仲間への警戒の合図として、後足で地面をたたく」である。ところが、WahrigやDudenの辞典では、両者が混同されているとしか思えないのである。

K/S 第5巻の出版は1976年(手許にあるのは1977年の第2版)である。この辞典は、最初は分冊の形で順次刊行されていたから、1976年以前にこれを参照することも可能だったことになる。しかも語義bの出典は、既に1946年に出版されたものである。だから、遅くともこの1946年までには、「危険を感じて後足で(素早く)地面を叩く」ウサギの行動が知られていたことになる。これ以後に編集されたと思われる辞典までが、それにも拘らず何故か「前足で」と記しているのである。

「前足で地面を叩く」と「後足で地面を叩く」のでは、大変な違いである。

3

ところで、グリムの『ドイツ語辞典』J. Grimm/W. Grimm: Deutsches Wörterbuch (以下『グリム』と略称)の第22巻(XI,I,2)〈Treib-Tz〉の刊行は1952年である。この巻の編集が始まったのは1930年で、trommelnの項目を含む分冊〈trolle-trösten〉は、既に1937年に出ている。

この第22巻の TROMMELN. trummeln, vb. では、語義が本来の1)「太鼓を打つ、太鼓で演奏する」と2)比喩的用法に分けられており、後者のaの β には次のように書かれている

β) *von tieren und physikalischen erscheinungen der natur; zuerst vom klopfen der hasen, vgl. trommeln sagt man, wenn der hase mit seinen vorderen läufen ganz geschwind auf die erde schlägt* V. HEPPE *wohlred. jäger* (1763) 300⁹⁾:

das hasenküniglin, es laufet, springt und spielet

auch trommelts eigentlich FR. V. SPEE *trutznachtigall* 157 *Balke*¹⁰⁾;

nur hasen trommeln,...wenn die gefahr ihnen nahe kommt GÖRRES *ges. schr.* (1854) 1, 338¹¹⁾

これによれば、trommelnは「動物や自然の物理現象に」、「最初はウサギがklopfenすること」に用いられたのである。「前足で」とも「後足で」とも書かれていないし、これだけではウサギのどのような行動なのか——太鼓を叩くのに似た行動、或いは太鼓を叩くような音を発する行動だろう、と推測はできても¹²⁾——よく解らない。しかし、そのすぐ後には「ウサギが前足で素早く地面を叩くとき、trommelnと言う」(Heppe)を「参照せよ」と記されている。これを読めば、その後に挙げられた二つの用例

「ウサギの王様、駆け、跳ね、遊び/また文字通り trommeln する」(FR. V. SPEE)

「…危険が身に迫る時 trommeln するのはウサギだけである」(GÖRRES)

に見られる trommeln の意味も、「前足で素早く地面を叩く」とことと理解しても不思議ではあるまい。しかも、2番目の Görres の用例から、ウサギが trommeln するのは「危険が身に迫るとき」であることも分るのである¹³⁾。Heppe による記述と Görres の用例を結び付けて考えると、確かに Wahrig や Duden に見られるような語義が得られはする。問題なのは、Heppe からの引用である。

Heppe の著書が刊行されたのは、1763年(第二版1779年)である。これと K/S の出典 GERLACH (1946) との間には、170~180年もの時代差がある。しかし、この間にウサギの方で「地叩き」の仕方を、「前足」から「後足」に変えたとは考え難い。そもそもこの「地叩き」は、『飼うウサギ』からの引用で明らかなように、「足のうらはちぢれ毛が密生して」いる「後足で」地面を叩くからこそ「よくとおる強い音」が出せ、だからこそ可能な「コミュニケーションの方法」なのである。

Heppe の記述「ウサギが前足で素早く地面を叩くとき、trommeln と言う」は、だから決して「後足で地面を叩く」「地叩き」行動と混同されてはならないのである。

4

ここで、『グリム』より前に出版された辞典類に遡って trommeln を引いてみると、『グリム』とはまた語義説明が異っている。

M. Heyne: Deutsches Wörterbuch. III. R-Z. zweite Auflage. Leipzig 1906 (初版全3巻の刊行は 1890-1895) :

auch von eigentümlichen Bewegungen des Hasen mit den Vorderpfoten.

D. Sanders: Wörterbuch der deutschen Sprach. III. Leipzig 1876 :

1) d) und so von Hasen: Oken 7.818; Der Hase trommelte auf Hinterfüßen den Abend aus mit Vorderfüßen.¹⁴⁾

J. Chr. Aug. Heyse: Handwörterbuch der deutschen Sprache. III. stehen-Z. Magdeburg 1849: Jäg. der Hase trommelt, wenn er auf den hinteren Läufen sitzend die vorderen schnell auf und nieder bewegt.

J. H. Campe: Wörterbuch der deutschen Sprache. IV. S-T. Braunschweig 1810 :

So sagt man vom Hasen, er trommle, wenn er auf den hintern Läufen sitzend, die Vorderläufe schnell auf und nieder bewegt.

J. Chr. Adelung: Grammatisch-Kritisches Wörterbuch. IV. Seb-Z. zweite vermehrte und verbesserte Auflage, Leipzig 1801 (初版全4巻の刊行は 1774-1786) :

So trommelt der Hase, wenn er auf den Hinterläufen sitzend, die Vorderläufe auf und nieder bewegt.

Heyne には、「前足によるウサギ特有の行動にも」この語が用いられる、と簡単に記されているだけだが、Heyse, Campe, Adelung のどれを見ても「後足で立って¹⁵⁾前足を(素早く)上下に動かす」ことだと説明されている。Sanders が挙げている用例でも、ウサギはやはり「後足で立って auf Hinterfüßen」「前足で mit Vorderfüßen」trommeln するのである。

ウサギが「前足を(素早く)上下に動かす」とき、その足の下に何か——ものであれ、ウサギや他の動物であれ——があれば、「前足で(素早く)叩く」ことになる筈であり、Sanders の例文中の trommeln もこのような意味に取れる。

Trübners Deutsches Wörterbuch の第7巻(T-V)もまた、「前足で叩く」という意味とその用例を挙げている¹⁶⁾。

Auch der Hase trommelt, wenn er mit den Vorderfüßen klopft: „ (Die Hasenmutter) stürmt herbei und trommelt auf das Hermelin los. “

「前足で叩くとき、ウサギもまた trommeln する」：『(母ウサギが) 急いで駆け付け、そのイタチに打ちかかる』

Adelung よりも更に古い C. E. Steinbach の *Vollständiges Deutsches Wörter-Buch* (1734) では、trommeln の語義として、ラテン語でただ *tympanum pulso* 「鼓を叩く」と記されているだけである¹⁷⁾。

Lexer の *Mittelhochdeutsches Handwörterbuch. Band 2* (1876) では、見出語 *trumben*, *trumpen*, *trumen* の項に、現在の *trompeten* と *trommeln* 両方の意味を挙げてあるが、ウサギに関する記述は見られない。

Benecke/Müller/Zarncke の *Mittelhochdeutsches Handwörterbuch. Band 3* (1861) には、見出語に名詞 *TRUMBE*, *TRUMME* が取り上げられているだけである。

trommeln の一方の意味「ウサギが前足で叩く」は、一般的なドイツ語辞典の記述としては Adelung にまで遡るようである。これが現在もなお Mackensen, *Der Sprach-Brockhaus*, K/S (の a) に受け継がれている訳である。ただ三者とも、ウサギがこの行動をするときの姿勢にまでは触れていない。

trommeln に相当する英語は *drum* だが、「オックスフォード英語辞典」*The Oxford English Dictionary* (参照したのは1933年版、以下 OED と略称) には、他動詞の語義の9番目(自動詞の1から数えて)に「太鼓をたたくように、(何かを) 打つか叩く」と記されている。

DRUM, v. II. trans. 9. To beat or thump (anything) as in beating a drum. *dial.* To beat or thrash.

1879年の例文——この語義の用例としては一番古い——は、

1879 JEFFERIES *Wild Life in S. Co.* 8 It is amusing to see two of these animals drumming each other; they stand on their hind legs ...and strike with the fore-pads as if boxing.

「この動物二匹が、叩き合うのを見るのは、面白い。彼らは後足で立ち …ボクシングをするかのように、前足で叩く」

である。these animals は、原著でこれより前の部分を読むと、実はウサギ the hares のことなのである¹⁸⁾。Adelung 以来の辞典に見られるように、ウサギは「後足で立ち…前足で叩く」のである。この *drum* にはウサギの「地叩き」に関する記述は見当らない。

ところで、Heyne の出版は1906年、以下 Sanders 1876年、Heyse 1849年、Campe 1810年、Adelung 1801年(但し、いずれも *trommeln* の項目を含む巻の刊行年)である。Heppe の本の初版(1763年)が出たのは、Adelung の辞典(但し、初版は 1774-1786 年)から数えてさえ二、三十年も前なのである。年代差だけから単純に判断すれば、Heppe の記述は Adelung 以下の辞典には支持されていないことになる。

「前足を素早く上下に動かす」或いは「前足で素早く叩く」とき、この動作を Heyse, Campe, Adelung, Sanders が示しているように、そしてまた OED によっても確認されたように、「後足で立って」行うのだとすれば、そんな姿勢で、果して「前足で地面を叩く」ことが可能であろうか。地面が、たまたま階段状を為しているか、或いは木の切り株のようにそこだ

け盛り上っているか、或いはまた縦に掘った穴から半身を出してその回りの地面を叩くのでない限り、「前足で地面を叩く」のは無理ではなからうか¹⁹⁾。

前述の『飼いウサギ』によれば、雌ウサギが、地中に掘った巣穴を一時的にふさいで置く時、入口に土を詰めて「トントンと前足で叩いて固める」そうである²⁰⁾。

また、高橋喜平の『ノウサギ日記』によれば、ノウサギは、硬くしまった雪に隠れる穴を掘っている時に、「前足の指のあいだにはさまっている雪をはらいおとすため」に「前足を硬い雪にパンパンとたたきつけ」るとのことである²¹⁾。

どのような姿勢で、これらの行動をするのか——少なくとも前者の場合には、一方の前足を突き、もう一方の前足で「叩いて固める」と想像されるのだが——書かれていない。これらの行動をも *trommeln* 或いは *drum* という動詞で表し得るのかどうか、今のところまだ解らない。仮に *trommeln* 或いは *drum* で表し得るとしても、これらはウサギが「前足で叩く」行動の一例でしかないのである。無論、「コミュニケーションの方法」としての「地叩き」とは無縁である。

5

リチャード・アダムズの『ウォーターシップ・ダウンのうさぎたち』では、ウサギたちが頻繁に「地面をたたく」のだが、この「地叩き」を表す動詞は *stamp* なのである²²⁾。

OED の *stamp* には、こう書かれている。

Stamp, v. II. 2. intr. b. To strike the ground or floor forcibly with the sole of one's foot, in order, e. g. to make a noise that will serve as a signal, to emphasize a command or an expression of firm resolve, to warm one's feet, etc.

「地面や床を、足の裏で強く打つこと、例えば、合図の役をする音を出す、命令あるいは堅い決意の表現を強調する、足を暖める等の為に」

用例にも、ウサギの「地叩き」が特別取り上げられてはいないが、「地叩き」は「合図の役をする音を出すために」「地面を足の裏で強く打つ」場合に該当する筈である。しかも、「人の足」即ち「動物の後足」という連想が容易に働くので、「後足」と「前足」を混同することはまず無さそうである。

英語では、それぞれ別の動詞 *drum* と *stamp* で表すウサギの2種類の行動を、*trommeln* ただ一語で表現するところに、「後足」を「前足」と混同するそもそもの原因があったとも言えそうである。

『グリム』の記述「最初はウサギが *klopfen* することに」が、「地叩き」を意図したのか、或いは「前足を（素早く）上下に動かす」即ち「前足で（素早く）叩く」行動を意図したのかは判断しかねる。それはともかく、Heppe の著書からの引用「ウサギが前足で素早く地面を叩くとき、*trommeln* と言う」は、どちらにとっても不適當だったと言えよう。

「地叩き」は「前足で」ではなく「後足で」するからである。「前足で叩く」にしても「後足

で立って」「地面を叩く」のは、矛盾だからである。仮に「前足で地面を叩く」ことがあるとしても、それは「前足で叩く」行動のほんの一例に過ぎないからである。Heppe の記述自体が、もし「地叩き」を意図したものだとするれば、これからして既に「後足」と「前足」を取り違えていることになる²⁹。『グリム』は、この Heppe の記述の内容には無批判だったのではなからうか。

6

Duden 系の辞典では、「ウサギが危機に際して前足で地面を叩く」という *trommeln* の語義説明が、少なくともここ十数年間——*Stilwörterbuch* (第 6 版 1971 年)、*Deutsches Universalwörterbuch* (1983 年) ——続いている。

1963 年刊行の *Stilwörterbuch* 第 5 版では、自動詞 *trommeln* に「狩猟用語」の表示なしで
der Hase trommelt (schlägt bei Gefahr schnell mit den Vorderläufen)

「ウサギが危機に際して素早く前足で叩く」

と記されている。第 6 版の記述との違いは、「素早く *schnell*」と「地面を *auf den Boden*」の有る無しである。この第 5 版の記述でも既に、ウサギの「素早く前足で叩く」行動と「危険を感じて素早く（後足で地面を）叩く」行動とが混同されている。

さらに古い 1956 年刊行の第 4 版になると、*trommeln* の項にそもそもウサギに関する記述が見られない。

Stilwörterbuch は、第 6 版で大幅な改訂増補が行われている。現在、Duden 系の辞典に見られるような記述に変わるのは、だからこの改訂増補からである。

しかし、これより早く、1966 年刊行の *Wahrig: Das große deutsche Wörterbuch* には既に現在の *Wahrig: Deutsches Wörterbuch* と同じく

schnell mit den Vorderläufen auf den Boden schlagen (vom Hasen u. Kaninchen bei Gefahr)

「(ノウサギやアナウサギが危機に際して) 素早く前足で地面を叩く」

と記されている。これがむしろ *Stilwörterbuch* 第 6 版の改訂増補の際に、Duden 系の辞典にも受け継がれたのではあるまいか。

もう一度『グリム』以前の辞典類の記述を振り返ってみると、狩猟用語 *trommeln* の意味は、「前足を（素早く）上下に動かす」即ち「前足で（素早く）叩く」である。しかも、「後足で立って」そうするのである。

Duden 系の辞典では、*Stilwörterbuch* 第 5 版で初めて、「ウサギが危機に際して素早く前足で叩く」という記述が登場するが、このうちの「素早く前足で叩く *schlägt schnell mit den Vorderläufen*」ならば、『グリム』以前の辞典でも——主として「前足を（素早く）上下に動かす」という形ではあるが——既に見慣れたものである。一方、「危機に際して *bei Gefahr*」の方は、『グリム』以前の辞典の記述には見られない。『グリム』に挙げられた用例 (Görres) 中に

類似の表現——「危険が身に迫るとき wenn die gefahr ihnen nahe kommt」——が初めて現れるのである。この第5版では、まだ半分は『グリム』以前の辞典の記述を、半分は『グリム』から Görres の記述を受け継いでいるように思われる。

1966年の Wahrig の記述「素早く前足で地面を叩く schnell mit den Vorderläufen auf den Boden schlagen」は、確かに『グリム』に引用された Heppe の記述——wenn der hase mit seinen vorderen läufen ganz geschwind auf die erde schlägt——と一語一語まで同じではない。しかし、これを「参照」しなければ、少なくとも『グリム』以前の辞典の記述からは、得られぬ筈のものである。

『グリム』に引用された Görres の記述——nur hasen trommeln,...wenn die gefahr ihnen nahe kommt——にある通り、「危険が身に迫るとき」ウサギは trommeln する。この場合の trommeln は、仲間への警戒の合図として「後足で地面を叩く」ことと理解すべきである。『グリム』以前の辞典類の記述にあるような「前足を（素早く）上下に動かす」即ち「前足で（素早く何かを）叩く」行動は、「危険…」とは、直接関係が無いのである。

恐らく1966年の Wahrig で初めて、この Görres の記述と、Heppe の記述とが、結び付けられたものと思われる。現在 Wahrig や Duden 系の辞典に見られる trommeln の語義の混同は、結局のところ『グリム』に、しかもそこに「参照」として挙げられた Heppe の一文に、原因があると思われる。Duden にも Wahrig にも、狩猟用語としての trommeln に用例は挙げられていない。

Heppe の記述は、印刷され出版された時から、或いはまた『グリム』に引用されたことで尚更、もはや実際のウサギの行動とは切り離され、ウサギの行動に関する疑いようのない事実として、独り歩きしたようである²⁴⁾。狩猟用語としての trommeln に関する限り、K/S の記述がもっと尊重されて良いのである²⁵⁾。

（小論は、日本独文学会1989年秋季研究発表会<1989年10月14日、大阪>で行った口頭発表に、若干補筆したものである。）

参 考 文 献

- 山本 明『最近のドイツ語辞典』日本独文学会編「ドイツ文学」73号1974年所収
 忍足欣四郎『英和辞典うらおもて』岩波新書、1982年
 R. M. ロックレイ『アナウサギの生活』立川賢一訳、解説小原秀雄、今西錦司監修「世界動物記シリーズ 2」思索社、1973年
 河合雅雄『飼いウサギ』今西錦司編「日本動物記1」光文社、1955年初版
 高橋喜平『ノウサギの生態（新版）』朝日新聞社、1982年（旧版1958年法政大学出版局）
 高橋喜平『ノウサギ日記』解説河合雅雄、福音館書店、1983年初版
 『新訳シートン動物記1』内山賢次訳、新潮社、昭和31年
 リチャード・アダムズ『ウォーターシップ・ダウンのうさぎたち』（上・下）神宮輝夫訳、評論社文庫、

1980年初版

ADAMS, RICHARD: Watership Down. PUFFIN BOOKS. 1973.

Goldener Kosmos-Tier- und Pflanzenführer: unsere Flora u. Fauna. Stuttgart ² 1987.

『動物大百科〈第5巻小型草食獣〉』D. W. マクドナルド編、今泉吉典監修、平凡社、1986年初版

『原色細密生態図鑑〈世界の動物7〉哺乳動物(Ⅰ)』監修今泉吉典、講談社、1982年

注

1) 名詞 Trommel (Trummel) は、trumme に接尾辞 >-l< を付けて造られたもので、この trumme (trumbe) 本来の意味は >Trompete von einfacher Gestalt< 「単純な形のラッパ」であり、それから >Trommel< 「太鼓」の意味になったとのことである。以上、Trübners Deutsches Wörterbuch, J. Grimm/ W. Grimm: Deutsches Wörterbuch, H. Paul: Deutsches Wörterbuch, Duden: Das Herkunftswörterbuch による。

2) Hase (英語: hare) はノウサギであり、Kaninchen (英語: rabbit) はアナウサギ、カイウサギである。小原秀雄——『アナウサギの生活』の解説——によれば、「ノウサギは Lepus 属に入る野生ウサギにあてられるべき名であり、ウサギはアナウサギ Oryctolagus に代表される」が、どちらも「日本では同じようにウサギ」とのことである。

但し、両者には生態上、次のような相違がある。ノウサギは、巣穴を掘らず、ほぼ単独で行動し、子ウサギは出生時に既に体毛が生えそろい、眼も開いていて、生後間もなく走ることができる。一方、アナウサギは、地中にトンネルを掘って、集団で生活し、子ウサギは、地下の巣穴で、毛の無い丸裸で生まれ、数日経つまで眼も耳も開かない。カイウサギは、遠くローマ時代にアナウサギが家畜化したものである。

広義の Hase には、Kaninchen も含まれる——Bertelsmann Handlexikon (1975) ——ので、以下両者を並べて区別しない限り、どちらも「ウサギ」と呼ぶことにする。

3) Brockhaus-Wahrig. Deutsches Wörterbuch. 6. Band. STE-ZZ. 1984.

Wahrig: dtv-Wörterbuch der deutschen Sprache. 1978.

trommeln<V.> Hasen, Kaninchen~<jägerspr.> schlagen (bei Gefahr) schnell mit den Vorderläufen auf den Boden

4) Duden. Stilwörterbuch der deutschen Sprache. ⁶ 1971: Jägerspr.: der Hase trommelt (schlägt bei einer Gefahr mit den Vorderläufen auf den Boden).

Duden. Deutsches Universalwörterbuch. 1983.: <Jägerspr.> bei Gefahr mit den Vorderläufen auf den Boden schlagen: der Hase trommelt.

5) im Sitzen は、『飼いウサギ』(後述)からの引用で分るように、両方の前脚を突き腰を下した姿勢である。

6) GRZIMEK, BERNHARD: Wildes Tier, weißer Mann. Leipzig 1969.

7) GERLACH, RICHARD: Die Vierfüßler. Hamburg 1946.

8) R. M. ロックレイ『アナウサギの生活』

「アナウサギの言葉は、視覚と嗅覚と聴覚を通じてである。聴覚は、草の中とか、巣穴の中で体をがさがさいわせるような動きによって、あるいは驚いて地面の上を後足でどしんどしんと踏みならす地たたきによってなされる信号を聴くことである」(27頁)

「雌ウサギは、この三、四週間、普通すぐそばにいるか、監視している。地面を後足で踏みたたいたり、白い短い尾を高くあげることによって、彼女の子ウサギに危険の警告を発する。子ウサギたちは、地たたきと尾上げの信号をおもしろがってまねながら、彼女に前後して地下へ入ってゆく」(212頁)

『新訳シートン動物記1』

「ぎざ公がひとり歩きしていいくらい大きくなると、おかあさんはさっそく信号法(シンゴウハウ)を

教えてやった。ウサギはアトアシで地面をとんとんとやって、おたがいに電報を打ちあう。地面にそつてだと、音は、ずっと遠くまでとどく。地面から二メートル上だと二十メートルまでしか聞こえないとんとんという音でも、地面にちかければすくなくとも百メートルまでは聞こえる。ウサギの耳は、たいへんするどいから、この同じとんとんという音は二百メートルまでも聞こえる…」(ぎざ耳ぼうずーワタオウサギの話一、91頁)

- 9) HEPPE, CHRISTIAN WILH. V. 1716-1791. 出典の原題は
einheimisch-und ausländischer wohlredender jäger oder nach alphabetischer ordnung gegründeter rapport derer holz-forst-und jagd-kunstwörter nach verschiedener teutscher mundart und landesgewohnheit. Regensburg 1763. ² 1779.
- 10) SPEE, FRIEDR. 1591-1635. 出典は trutz-nachtigal. hg. v. G. Balke. Leipzig 1879. (=dt. dichter des siebzehnten jhs. hg. v. K. Goedeke u. J. Tittmann. bd. 13).
- 11) GÖRRES, JOS. V. 1776-1848. 出典は gesammelte schriften. hg. von M. Görres. 1. abt.: politische schriften. München 1854-60. VI
- 12) 『グリム』の trommeln 2) a) には、
bewegungen machen wie beim trommeln und dadurch auf einem festen gegenstande klopfgeräusche hervorbringen
「太鼓を叩くときのような運動をする、何か堅い物の上でそうすることにより打撃音を発する」
その α) には、
vom menschen besonders mit der faust, den fingern, den händen trommeln
「(人が特に) 拳、指、両手で叩く」
と記されている。

- 13) ここで、Spee と Görres の引用箇所を、念の為原文で見おきたい。

先ず、Spee である。引用は >Erloga und Hirtengesang< からで、この中では、二人の牧人 Damon と Halton が、幼子キリストに進呈したい贈物を、聞かせ合うのだが、これは Damon の言葉 (57-64 行) である。

Und ich will ihm noch schenken/Ein Hasenküniglin ;
Es ist von tausend Ranken,/Von frisch und leichtem Sinn :
Es laufet, springt und spielet,/Auch trommelts eigentlich,
Die Streich zum Boden ziele/Mit Füßen meisterlich.

Hasenküniglin (58行) と eigentlich (62行) には、それぞれ次のような注がある。

Hasenküniglin. Im Manuscript erklärt mit : „ist ein Caneinlein.“ Kaninchen.
eigentlich = genau, deutlich, vollkommen.

最後の二行から確かに、ウサギが地面を「足で mit Füßen」「叩く」らしいことは解る。しかし、それが「前足」か「後足」かは、不明のままである。

この用例は、Gustav Balke の編集による1879年版から採ったものだが、初版の刊行は1649年である——trvtz nachtigal, oder geistlichs-poetisch lvst-vvaldlein...zum erstenmahl in truck verfertigt. Cölln 1649.

一方、Görres の用例は、1814年1月から7月までに、》Rheinische Merkur《に書かれた政治関係の論文の中の一編 >Der Landsturm jenseits des Rheines< から引いたものである。該当箇所を、省略部分と後続部分をも加えて抜き出せば、次の通りである。

Nur Hasen trommeln, und Schafe stampfen zaghaft, wenn die Gefahr ihnen nahe kommt; das edle Thier aber nimmt ruhig seine Kraft zusammen, um ihr zu begegnen, und sie abzuwenden. ここでは、ウサギとヒツジが、das edle Thier——具体的に名を挙げてはいないが——に対比される臆病な動物として、取り上げられている。それはともかく、これを見てもウサギが「前足」か「後足」のどちらで trommeln するかは、解らない。

Spee の原文から、遅くとも彼の没年1635年までには、「ウサギが足で地面をたたく」行動は知られていたことになるし、Görres の原文から、遅くとも彼の没年1814年までには、ウサギは「危険が身に迫ると」 *trommeln* する——この場合は「地叩き」の筈である——という事実が知られていたことになる。

14) 出典は、Oken, L., 1782-1851, *Allgemeine Naturgeschichte*. Stuttgart 1833ff.

15) 原文 *auf den hinteren Läufen sitzend* をこう理解した。「前足を素早く上下に動かす」ためには、犬がチンチンするように、体を直立させるか或いはそれに近い姿勢をとると考えざるを得ない。『オックスフォード英語辞典』の *drum* の用例（後述）を見ると、この点がもっと明らかになる。

16) 出典は、Löns, H.: *Aus Forst und Flur* (1916) 51.

この辞典の第1巻は1939年に——第3巻がこれより先1938年12月に——刊行されている。序文によれば、編集にあたったのは、1934年創設の *Arbeitsgemeinschaft für deutsche Wortforschung* とその会員であり、作業全体のために見出語のリストが印刷された後、個々の分野の専門家が分担を決めたとのことである。第7巻の刊行は、『グリム』第22巻の4年後ではあるが、編集の仕事は、『グリム』の *trommeln* を含む分冊の刊行（1937年）以前に既に始まっている。それ故、この辞典も『グリム』以前の辞典類に含めることにする。

17) 参照したのは、1973年刊行の覆刻版——Christoph Ernst Steinbach: *Vollständiges Deutsches Wörter-Buch*, Nachdruck der Ausgabe Breslau 1734. *Documenta Linguistica. Quellen zur Geschichte der deutschen Sprache des 15. bis 20. Jahrhunderts*. Herausgegeben von Ludwig Erich Schmitt. Reihe II. Wörterbücher des 17. und 18. Jahrhunderts. Herausgegeben von Helmut Henne. Hildesheim/New York 1973. ——である。

この辞典では、*trommeln* (= *drommeln*) が、見出語 *Drommel* の項にまとめられた関連語（小見出語）中に、過去分詞 *Gedrommelt* の形で挙げられている。

Gedrommelt, praes. *ich drommele*, *tympanum pulso*.

18) JEFFERIES, RICHARD: *Wild Life in a Southern County*. (但し THOMAS NELSON AND SONS, LTD. LONDON, EDINBURGH, AND NEW YORK 版, 刊行年不明、OED に引用された版とは頁数が異なる) の18, 19頁。引用された箇所全部とそれに続く文章は次の通りである。

It is amusing to see two of these animals drumming each other; they stand on their hind legs (which are very long) like a dog taught to beg, and strike with the fore-pads as if boxing, only the blow is delivered downwards instead of from the shoulder. The clatter of their pads may be heard much farther than would be supposed. Round and round they go like a couple walzing; now one giving ground and then the other, the fore legs striking all the while with marvellous rapidity. p.19.

「この動物二羽が、叩き合うのを見るのは、面白い。彼らは（大変長い）後足で、チンチンを教わる犬のように立ち、ボクシングするかのように、前足で叩く。ただし、打撃は、肩から真直ぐ前へではなく、下向きに加えられる。前足の叩く音は、思いの外遠くまで聞こえるかもしれない。彼らは、ワルツを踊る一組のようにぐるぐる回る。一方が退くかを見ると次には他方が退く、前足はその間中驚くべき速さで叩いている」

19) 実際にウサギが前足で叩くところを、偶然テレビの画面（石川テレビ『世界の動物ビックリ大賞』、1988年6月4日放映）で見ることができた。地面か床から二十センチ程の高さで前に差し出されたタンバリンを、後足で立ち上り、左右の前足で交互にダダダダダと叩いていたものである。

20) 河合雅雄『飼うウサギ』

「巣ができあがると穴に尻をむけ、土をひっかいて股のあいだからそれを後方に送る。だいたいふさがると、こんどは前に向きを変え、たまっている土をおしやって穴の口をしっかりとつめた。そして、トントンと前足で叩いて固めるのである」(218頁)

これは、出産を2-3日後に控えた雌ウサギが、巣を作り終えた後のことである。この外、子ウサギの生後22-3日までは、巣穴へ授乳に通うたびに入口をあけ、またふさぐそうである (219-222 頁)。

21) 高橋喜平『ノウサギ日記』

「その結果わかったことは、ノウサギはかくれるために雪に穴を掘ってひそむということであった。(中略)ところが、密度の大きいしまり雪の場合は前足をすばやく交互に動かして雪をひっかけ、それを10秒から15秒ぐらいつづけ、そのあとであとずさりして前足を硬い雪にパンパンとたたきつけた。

最初、その理由がわからなかったが、数回くりかえしているうちに、その行動は前足の指のあいだにはさまっている雪をはらいおとすためであることがわかった。指のあいだに雪がはさまっていると、雪に爪がたたず、掘る能率が低下するからであろう」(211-212 頁)

22) 例えば

He stamped to attract his attention and ... p.254.

「彼の注意をひくために、後足で地面をたたくと…」(邦訳上巻386頁)

邦訳では、ウサギが「後足で地面をたたく」ことは、自明とみなされているのである。stamp 以外には——知り得た限りで——thump がただ一度現れるだけである。

Hazel slipped out of the burrow into the run and at once came upon Strawberry busily thumping a hind leg on the hard earth floor. p.93.

「ヘイズルが、巣穴から通路へそっと出たとたん、後足で、かたい土をせっせと踏みならしているストローベリーにぶつかった」(上巻132頁)

アダムズがこの本を書く際に参考にしたのは、前述の R. M. ロックレイ『アナウサギの生活』 R. M. Lockley: The Private Life of the Rabbit (1964) である。注8に示した邦訳の原文は、次の通りである。「地たたき」に用いられているのは、ここでも stamp である。

Rabbit language is through the senses of sight, smell and hearing -the hearing of signals made by movement, of body rustling in the grass or in the burrow, or by the thudding stamp of hind feet on the ground in alarm. p.23.

The doe, usually close at hand or on watch at this three or four week period, warns her kittens of danger by stamping her hind feet on the ground and elevating her white scut. They precede or follow her below ground, amusingly copying her signals with stamping feet and raised her tails! p.131.

同じく注8に引用した『シートン動物記1』の原著 Seton: Wild Animals I Have Known は未見である。

英語 stamp に相当する stampfen を『グリム』で見ると、その3として次のように記されている。

3) *von menschlichen und thierischen wesen, 'mit den füßen fest auf den boden treten'.*

「人間や動物について、『足でしっかり地面を踏みつける』」

この3のbには更に

b) *vom thieren, so vom hufthieren, insbesondere von pferde; auch hier gewöhnlich als zeichen der ungeduld, des mutes u. s. w.*

「動物、例えば有蹄類、特に馬について、この場合も普通は苛立ち、闘志などの徴として」とある。

23) 河合雅雄——『ノウサギ日記』の解説——によれば、ウサギの「地叩き」を実地に観察するのは、それほど容易なことではないらしい。

「だが、最初のころは、この音がどのようなしかけで発せられるのか、なかなかわからなかった」(260 頁)

「後足は、ほんのわずかしかに上にあげないから、ちょっと見ただけでは気がつかない」(261頁)

引用の際の『グリム』の筆記ミス——という可能性は、Heppe の原本(1763年の初版)のコピーによって否定される。

24) 1988年9月に出版された Stilwörterbuch の改訂増補第7版(7., völlig neu bearbeitete und erweiterte Auflage)では、trommeln の項から狩猟用語としての語義説明そのものが、何故か姿を消している。今後、Wahrig の名の付いた辞典が改訂されることがあれば、こちらからも狩猟用語としての

trommeln の語義説明が削除される可能性大と思われる。

- 25) ただ、この K/S の記述にも、一つ疑問な点がある。記憶が正しければ、「地叩き」は「後足で」、しかも左右どちらか「片方の後足で」地面をたたき行動の筈である。この辞典の、trommeln の語義 b の説明は

bei vermuteter Gefahr im Sitzen schnell mit den Hinterläufen auf den Boden schlagen
である。つまり、「後足」が複数で、>mit den Hinterläufen< と記されている。これだと、「両方の後足で」同時或いは交互に地面を叩くかのように、誤解されはしないかということである。むしろ、「後足」を単数で >mit dem Hinterlauf< と書き替えた方が良いのではなかろうか。現に、『ウォーターシップ・ダウンのウサギたち』の中の「地たたき」行動を表している一文——注22を参照、但し、原文に使われているのは、stamp ではなく thump であるが——では、「後足」が、明らかに単数 >a hind leg< で記されている。

...Strawberry busily thumping a hind leg on the hard earth floor.

「 …後足で、かたい土をせっせと踏みならしているストローベリー… 」

少なくとも、「地叩き」が「両方の後足で」するものなのか、「片方の後足で」するものなのか、検討の余地があり、さらに調査中である。

意外なことに、『ノウサギ日記』（262-263 頁）によれば、日本のノウサギ（正確にはトウホクノウサギ）は「地たたき」をしない、とのことである。これがヨーロッパ種のノウサギにもあてはまるならば、「地たたき」をするのは、厳密に言えば「アナウサギ Kaninchen」だけということになる。